

腎移植手術見学の所感

今回、腎移植手術を間近で見学できたことは私にとって大きなプラスになりました。私は以前膝の手術をしたことがあり、その時自分の膝の内部を内視鏡で見て、「面白い!」と思い、医学に興味を持つようになりました。しかし、「実際に他人の体の中を見るのは・・・」という恐怖感を持っていました。ですが、今回手術を見学させていただいて、やっぱり人体の面白さを感じました。何重にも守られて出てきた腎臓は掌大で、小さな血管が浮いて見えていて、生きている臓器を感じました。また、なによりも感動したのは手術を行う医師や看護師の方々です。8時間以上に及ぶ手術、慣れない私はくらくらしそうでした。でも、先生達は集中力が途切れることなく患者さん、病気に立ち向かっていました。細かい作業や慎重な作業の連続で、“移植手術”というのがどんなに大変なのか、杉谷先生から伺っていた話から想像していた以上に思い知りました。右の腎臓は肝臓が上にあり、そして利き手の問題で摘出しにくいと伺いました。その中で手術なのに先生方はてきぱきと手術を行っていました。特に、腎臓から出ていた2本ずつの動脈と静脈をレシピエントに移植するため1本に縫い合わせる細かい作業、目を凝らさないと縫い目がはっきりしないくらいだったのが印象に残っています。ドナーから臓器を取り出し、適切に処置し、レシピエントに移植する。また、ドナーの状態にも気を配り、移植後に腎臓が正常に機能するかどうか確かめる、という多くの過程が間近で見られて本当に良かったです。私は研究分野に進むので今回のような臨床の現場に立ち会える機会は滅多にないでしょう。でも、開発された技術が臨床の現場で実際にどのように使われているか、また、さらに求められる技術、治療法はなにか、ということを考えるうえでこのような経験は必ず役に立つと思います。このような経験を得る場を与えてくださった杉谷先生、そして知識の少ない私たちに説明して下さったり協力的にしてくださった手術室のスタッフの皆さんにはたいへん感謝しています。またこのような機会がありましたら是非進んで参加したいです。

2007年9月7日 医学部生命科学科 渡邊あゆみ